

起業家支援財団 事務局通信 NO.6



第2回ベンチャー起業家と経営者をつなぐフォーラムにて。

「会津における食と農を通じた地域づくり」をテーマに、本田勝之助氏が基調講演した。登壇者が感心するほどに、約100名の参加者は熱心に耳を傾けた。(8月26日)

発行日 平成21年12月1日(火)
発行 財団法人起業家支援財団
事務局 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
TEL 045-263-9222 FAX 045-263-9220
www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp
発行責任者 小林孝雄 編集 治田友香

8月には第2回ベンチャー起業家と経営者をつなぐフォーラム、9月には経営道場'09の開講、学生起業塾の実施、第3期奨学生募集などの事業推進に取り組んできました。

事業活動の定着・充実を図りつつ、組織基盤の強化に向けて公益認定申請を先日済ませたところです。

今回は平成21年度第二・第三四半期の報告をいたします。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。(副理事長:小林)

■「ビジネス感性を磨く経営道場'09」9月17日より開講

昨年に引き続き、経営道場を開講いたしました。将来の経営者候補者、経営を補佐する立場の役員の方など10社16名の受講生に参加いただいております。10月の合宿を経て、受講生間のコミュニケーションも活発になされるようになりました。

この道場では、経営課題の解決の糸口となる理論と、実践経営者が語る独自の経営道の二本立てで実施しており、今回は実践経営者として上野保評議員と倉橋泰評議員にご講演いただきました。創業者としてのご経験を時に失敗談も交えながら、経営者の心構えやピンチを乗り越える精神力の持ち方などを伝授していただきました。ありがとうございました。

■第2回ベンチャー起業家と経営者をつなぐフォーラム(8月26日)

第2回目となるフォーラムのテーマは、『食と農における新しいビジネスの可能性——食と農の現場から神奈川県を発信する』としました。

基調講演として福島県会津地域で事業を展開する本田勝之助氏〔㈱会津食のルネッサンス代表取締役〕にお話していただき、パネルディスカッションでは神奈川県内における新しい農の取り組みを加藤京子氏〔加藤花園〕、宮治勇輔氏〔榊みやじ豚代表取締役社長〕にご紹介いただきました。

3人の登壇者はいずれも農業後継者であり、その立場を十分に活用しつつ、農業を「より稼げる」事業に転換させていく取り組みをお話いただきました。加えて、単に農業従事者が努力するだけでなく、農家のこだわりを物語にして顧客に伝えることや、地域経営という視点をもって関係者に働きかけていくことの重要性、顧客の求めるものを具現化することで商品価値を高める方法など、実践者ならではの工夫が熱意を込めて話されました。

京都や三重からの参加もあり、大学生・農業従事者・創業支援機関・行政機関・金融関係者など多様な方々にご参加いただき、この分野への関心や期待の高さがうかがえました。イベントの様子は当財団ホームページでも報告していますのでご覧いただければ幸いです。



パネルディスカッションの様子。ホテルキャメロットジャパンにて。

■学生起業塾 実施報告

6月～11月までに学生起業塾を4回実施しました。製造業からインターネット古書店まで幅広い分野からお招きした講師のお話により奨学生は大いに刺激を受けています。講演後に、講師が設定する課題は「海外での創業を想定した場合、その優位性と考えられるリスクをまとめよ」「自身のプランを地方で展開することを想定した場合のメリット・デメリット」など多岐にわたり、奨学生は大学の講義とは趣の違った経営課題に取り組む機会を得ています。

また各回行っている奨学生による起業プランディスカッションは、お互いの意見交換を通じて起業プランに対する考えをより深めることができました。

第10回 6月19日 関田仁志氏 〔サイバーレイザー(株) 代表取締役社長〕	同社の事業領域であるオプトエレクトロニクスは新興企業が少ないことを説明し、起業する際は競合の少ない事業領域を選択することが有利であることが述べられました。また、会社は社会に貢献することが必要であり、それがなければ、協力者は出てこないし、協力者がなければ、企業は破綻してしまう。だから、どこで社会に貢献するのかを考えることが重要であるといったアドバイスがなされました。
第11回 (合宿) 8月4日 吉田英男氏 〔三浦市長〕	一次産業が中心で高齢化率が高いことなど同市の実情をお話いただいたうえで、民間活力による行政改革や官民協働など、これまでに展開してきた施策や今後の展望などをお話いただきました。
8月5日 横浜製機(株)訪問	関根宗平代表取締役社長より、自動車部品製造をメインに行っていた同社が事業領域をシフトしていった過程などを通じて「世の中の役に立たなければ企業は生かしてもらえない」、「10年先の種まきが今、必要である」などのメッセージをいただきました。
第12回 9月16日 栗田秀臣氏 〔(株)ケイエスピー インキューベーションマネージャー〕	ご自身の経験に基づき、「失敗事例を押さえておくことが役に立つ」、「企業経営ではドメインが重要。ドメインとは、『何をする会社か?』という問いに対する答え」、「ビジネスプランを話すとき多くの人は好意的に聞いてくれるが、『買って下さい』とお願いに行くと『予算がない』と言われる。誰が買ってくれるのかをよく考えるべき」など、説得力のあるアドバイスがなされました。
第13回 1月12日 尾野寛明氏 〔(有)エコカレッジ 代表取締役〕	島根県川本町という過疎の町でインターネット古書店を運営している経験から、家賃が安価、人的ネットワークが作りやすい、補助金が手厚い、人件費が安いなど地方で事業を行うことのもさまざまなメリットが紹介されました。また、学生時代の起業は、資金が脆弱でスピードが遅いというデメリットはあるものの、利益が出るまでの猶予期間が確保できるメリットがあると説明されました。



横浜製機(横須賀市)での工場見学。自動車から車両への事業転換を迫られた当時の、経営者の責務の重さをしみじみと奨学生に語っていただきました。



第12回尾野寛明氏の講演。学生だからこそできる経験をたくさんしてほしいと熱いメッセージをいただきました。

第3期奨学生募集を締め切りました

来年4月に奨学金支給を開始する第3期奨学生の募集は10月30日に締め切りました(6月に応募開始)。応募者総数は38件でした。

事務局では、次回の応募から、ものづくりや技術系の事業構想を持っている学生からの応募をさらに強化したいと考えています。皆様には、この奨学金給付プログラムに関心がある学生やアプローチ先などのご紹介などのお力添えをいただきたいと思います。

■平成21年度第2回臨時理事会ならびに臨時評議員会を開催

10月29日、神奈川中小企業センタービルにて標記の会議を行い、主として次期役員・評議員の選任、公益認定申請にかかる議案を諮り、すべての議事が満場一致で承認されました。

また、財団の組織基盤の確立と中期運営計画を策定するため、中期運営計画策定委員会(準備委員会)を設置し、多方面からの意見をいただいております。こちらは年内に素案をとりまとめ、次の理事会・評議員会でご報告する予定です。

事務局から

- 9月1日に新事務所(神奈川中小企業センタービル)に移転しました。最寄駅は関内駅です。事務所は狭くなりましたが、経営道場や学生起業塾を行うには、よい環境となりました。お近くにお越しの際は、気軽にお立ち寄りください。
- 10月から新しいスタッフとして、坂本香澄さん、須藤泰乃さんを迎えました。主として事務局業務全般を担当します。よろしくお祈りします。
- NPO 創業支援機構は6月に発展的に解消し、その活動を財団活動に一本化することとなりました。機構で採用した奨学生はすべて財団に移管し、総勢39名の奨学生に対して、奨学金を支給し、学生起業塾を実施しています。彼らの活動を近くWEBなどで紹介していきたいと思っております。